蓮通信
The Lotus News
2006年5月1日 発行 No.29 通巻62号

蓮文化研究会 The Lotus Japan
事務局 三浦功大
〒171-0052 東京都豊島区南長崎3-9-23
ラボン・ファミイユ207
電話＆FAX 03-5995-2052
URL http://www.lotusjp.com
E-mail tokyo@lotusjp.com

会員各位におかれましては、ますますご健勝のことと拝察申し上げます。

そろそろ浮き葉が出始める頃と思われます。今年もたくさん花が咲きますように願っています。蓮通信29号をお届けします。

第32回例会のお知らせ「豪州の蓮」

今年4月初旬、オーストラリア・ノーザンテリトリー準州・ダーウイン市近郊、カカドゥ国立公園等に自生している蓮の花を、千島秀元理事が調査に行ってきました。その報告をしていただきます。引き続いて、蓮情報交換。多数の参加をお持ちしています。

日時 6月10日（土） 17時30分～21時
場所 豊島区立勤労福祉会館 4階 第3会議室
豊島区西池袋2-37-4
電話 03-3980-3131
問合せ 事務局まで

ホームページ・リニューアル

長い間ご不便をおかけしていましたが、当会のホームページを一新します。まだ一部の頁が工事中ですが、今後、随時更新して参ります。ご意見、ご希望等がございましたらお聞かせください。5月15日よりアップロードの予定です。

新URL： http://www.lotusjp.com
新E-mail： tokyo@lotusjp.com

中国に蓮根を贈る

第20回中国荷花展（第1会場＝杭州）の第2会場である、広東省・東莞市橋頭鎮より、日本の蓮の花を中国荷花展の会場で是非展示したいとの要請がありましたので、以下の十一品種を送りました。今夏は日本のまとまった品種と、中国全土から集められた蓮の花が、咲き競ってくれるものと願っています。

蜀紅蓮、巨椋の炎、知里の曙、大賀蓮、誠蓮、精華、輪王蓮、バージニア蓮、桃白状、行田蓮、舞妃蓮。

新会員紹介（2月～4月に入会された方）

船津慧治 〒四一〇-四一二一
静岡県伊豆の国市韮山山木
電話 055-949

本山賢之（高蓮寺住職）〒七八〇-八〇七三
高知県高知市朝倉本町2
電話 088-844

生玉道雄（青源寺住職）〒七八九-一二〇一
高知県高岡郡佐川町甲
電話 0889-22
FAX 0889-22

釣井龍宏（定福寺住職）〒七八九-〇一六七
高知県長岡郡大豊町粟生
電話 0887-74
FAX 0887-74

4月27日現在、会員数は174名です。

『蓮文化だより11号』原稿募集

『蓮文化だより』十一号を明年一月、発行の予定です。原稿締切りは九月末日です。今から準備をお願いします。締切りに遅れた場合は、掲載出来ないことが有りますのでご注意下さい。書式は縦書きです。随筆、創作、観蓮記、研究など、蓮に関するものでしたら内容は問いませんが、独創的なものを歓迎します。

一人一ページを原則とし、文字数は二千字から二千五百字です。二ページになる方は、五千字を限度といたします。写真、図版は多めに添えて戴き、選択は編集部に一任ください。原稿と写真はレイアウトせずにお送り願います。

会費納入のお願い

二〇〇六年の会費未納の方（振替用紙を同封）は、左記の口座に早めの納入をお願い致します。

賛助会員 二〇、〇〇〇円
夫婦会員 八、〇〇〇円
一般会員 五、〇〇〇円
蓮文化研究会 00170-5-608708

蓮通信30号は6月中旬発行予定です。蓮祭り、観蓮会特集を企画しています。会員の方、近くの蓮園、個人宅で蓮祭り、観蓮会の企画、予定がありましたら事務局までお知らせください。締切り6月10日（土）

「蓮とパンダ」の北京五輪マスコット

二年後、北京で第29回オリンピックが開かれる。すでに景気のいい話題が先行している。そのマスコットの一つが、「霊感をよぶ」吉祥物とされるパンダである。その名は晶晶（チンチン）。

パンダの冠に注目したい。それは蓮の花びらで、宋代の陶器「蓮花造型」をベースにしている。吉祥パンダのご利益はどこの国に？

ラッキーベビー「チンチン」

伊藤若冲「動植綵絵」の全巻公開

宮内庁三の丸尚蔵館（03-5208-1063／東京・皇居東御苑内）では、六年がかりの修復・調査が終了した、江戸中期の画家、伊藤若冲の代表作「動植綵絵」三十幅を、五期にわたり、六幅ずつ展示する。「蓮池遊魚図」は6月3日～7月6日（月と金休館／入場無料）展示されます。

蓮池游魚図

南会長のご子息・広さんが、3月11日～22日まで、中国・広東省 広州市三水区にある、蓮のテーマパーク「三水荷花世界」で、王其超先生ご夫妻のお世話で中国流の蓮の植替えを実習してきました。以下はその体験記。

中国蓮植替え体験記

南 広

3月11日（土） 曇　気温15度　8日から今日まで池上さん、父と共に行動してきたが、朝食後からは一人になる。自分は殆ど中国語が分からないので、いつも辞書と会話文とメモ帳は持ち歩いた。会話が通じないので筆談が主になる。初めて一人での昼食はとても緊張してあまり進まなかった。池上さん、父と別れて、橋頭鎮から三水に戻ったのは15時過ぎだった。今日からの宿泊部屋は、王先生ご夫妻の向いの部屋だった。ここで生活するのは思った以上に苦しいと思った。

3月12日（日） 曇　気温13度　昨晩はなかなか眠れず睡眠不足。今日から研修が始まる。朝食は王先生ご夫妻と私を世話してくれる銭さんとで頂く。銭さんは27歳で大学を出てこの会社に就職したとのこと。会話は殆ど英語であった。まず案内されたのは品種資源圃。男女20名程の作業員がレンコンの植付け準備で、鉢に土入れや水溜等をしていた。土は池塘土と言って池の底をユンボで取り上げ、約一年間天日干ししたものを使う。手で触った感じでは、とても硬い塊でゴロゴロしている。肥料は最初何も入れない。水は池水をホンプで汲み上げて入れ、スコップで5～6分掻き混ぜる程度だった。

3月13日（月） 雨　気温9度　朝から雨で、銭さんも忙しいらしく、一人で園内を見学した。

3月14日（火） 曇　気温10度　ここの作業時間は、8時30分～11時30分と14時～17時30分までで、昼休みが長い。夜、社員の結婚式に、王先生ご夫妻と一緒に招待していただく。

3月15日（水） 曇　気温10度　今日はレンコンの植付けを見学。レンコンは全体に鉢の底まで沈めず中間に植付ける。日本とあまり変わりがないと思った。

3月16日（木） 曇　気温14度　午前中は植付けの手伝いをした。午後はレンコンの植替えを見学。こちらの植替えは、鉢を1㎡のシートにひっくり返し2～3本レンコンを取り出したら、残りは捨てる。女性4人一組で次から次へとひっくり返す。レンコンを取り残った土は男性が2輪車で捨場に運ぶ。**写真①②**

3月17日（金） 曇　気温15度　植付け作業と土混ぜ作業をする。日本に持ち帰るレンコンを歯ブラシで綺麗に掃除をした。

3月18日（土） 曇　気温15度　園内のコンクリートの蓮池（百荷争妍科普長廊）が百ある。今日はここでレンコン植替え作業の手伝い。水中ポンプで水を吸い上げ、泥を手でかき分けての慎重な作業だ。毎年全部を植替えするそうだ。土も水も入れ替える。植替えして一ヶ月以内に鶏糞を蓮の成長を見ながら与えるそうだ。**写真③**

3月19日（日） 曇　気温15度　昨日と同様作業。

3月20日（月） 雨　気温15度　今日が研修最終日だ。あいにくの雨だが、昨日と同様の作業をする。

王其超・張行言ご夫妻、銭さん、阿妙さん、三水荷花世界の皆様、大変お世話になりました。有り難うございました。

「死者の書」人形アニメ映画鑑賞記

高清水 英子

二月のある雨の日、蓮文化研究会の方々と、岩波ホールで人形アニメーション映画「死者の書」（折口信夫原作、川本喜八郎監督）を鑑賞しました。ザグレブ国際アニメーション映画祭で審査員特別賞を受賞した作品です。

奈良時代を舞台に、信心深い「中将姫」が、蓮の糸で当麻曼陀羅を織ったというお話です。人形劇は、幻想的で美しい奈良時代の世界に、私を引き込んでくれました。のどかな奈良の大路と、嵐の中、当麻寺に向かう中将姫。蓮池を見るや、伏し目がちの目―。

中将姫の立振舞と奈良の雰囲気に圧倒され、とても人形劇とは思えない。感慨を受けました

緑の葉といっても蓮の葉は、光の加減によって微妙に色が変わり、独特の色あいで人の心をなごませます。ましてや、花にいたっては荘厳の一言です。そのような、奥深い広がりを持った奈良の世界を、体感させてくれました。

「死者の書」は、とても難しい書です。本文と解説文が、ほぼ同ページあるのです。私にはいまだによく理解できませんが、人形劇を見て、「何も、全部を理解しなくても、感じるだけで十分なのだ」と、いうことに気づくことができました。

現代より、気温が少し高かったと言われる奈良時代、蓮池はそこここに、たくさん広がっていたのだと思います。

むしろ、現在の蓮池は、残されたわずかなものなのかもしれません。もっともっと蓮池は、人々の生活の身近にあり、心の安らぎと、食用という生活の糧としてあったんだろうと、帰り道に思いました。

かつて、松山バレエ団が上演した「新・当麻曼陀羅」を思い起こした。バレエで表現されたのは、ダイナミックで迫力ある曼陀羅の世界です。しかし、幻想的な人形劇は、人が演じる生々しさと違いました。「人間くささ」をそぎ落とし、シンプルに表現された中将姫。書物よりもストレートに、中将姫の世界を感じさせてくれたのです。

鑑賞後、南会長が、二月だというのに、「今朝咲いたんですよ」と、デジタルカメラに温室で咲いた、蓮の花が綺麗に写っていて、大盛り上がりでした。デジタルカメラで肌身離さず蓮の花を持っている…。つくづく、皆様「蓮好き」だと思い、同時に、同じものを愛する人々と出会えたことを、幸せに感じました。

このように、古来蓮は、その身すべてが人々のためにあったのだと思い、心静かに、また温かくなって嬉しかったです。

「中将姫は伝説ではない、実在したのだ」と、日頃わめいている私は、また一段と確信を持って、久しぶりに満足感を味わいました。今日も尚、中将姫が伝説として語り継がれているのは、単なる作り物の説話ではなく、蓮の花と共に実（み・じつ）があるからこそと思われます。

「死者の書」の人形アニメーションを観るまえにまして、私の中で、「中将姫」は育っています。写真 当麻曼荼羅（貞享本）